

小社発行の「看護学事典」の執筆者の皆様は、事典で解説していただいた用語にまつわるエッセイをご執筆いただきます。



## 第1回

### しゅう しゅ じゆつ き 周手術期

手術の決定時点から、術前、術中、リハビリテーション期を含む術後までの一連のプロセスをいう。(看護学事典第2版より)

土藏 愛子 Tokura Aiko  
東京女子医科大学看護学部  
認定看護師教育センター

# 説明と同意の大切さ

「周手術期」は「手」を省いて「周術期」とも言われます。手術は大きな侵襲を伴う治療となります。患者は手術による疾病の回復を期待する一方で、手術や麻酔への不安、手術後の機能障害や形態の変化への心配を持っていますので、治療に対する意思決定においては、十分な説明と同意が必要となります。この項目を担当し内容を書き進める中で、ある喉頭腫瘍の患者のことを思い出しました。

その方は喉頭腫瘍で喉頭全摘手術予定の50歳代の男性患者でした。手術当日の朝、訪室し、環境整備をしながら「今日は手術ですね」と話しかけ、手術後のことを励ましていたところ、手術は簡単なものと捉え、手術後の声を失うことについては理解していないようでした。そこで、手術後のことをどのように聞いているかを確認したところ、やはり声帯がなくなることで声が出なくなるとは思っていなかったようでした。表情が硬くなり、そんなことは聞いていない、そんなことなら手術は受けないということになりました。

急いで婦長(当時の名称)に伝え、婦長はすぐに医師に連絡しました。医

師も驚いて手術は延期の旨を手術室にも連絡しました。それからしばらく病室で医師と患者が話をしていました。結局、手術は当日の午後に行われました。

手術後、患者は筆談で「声を失ったことはショックでしたが手術を中止して説明してくれた先生の誠意を感じた」と伝えてくれました。声の回復のための食道発声法や頸部に当てて使う機器(電気喉頭)のことも詳しく説明を受け、納得して手術に臨めたことで、術後も前向きに回復への努力をすることができたと話して(書いて)くれました。手術当日であっても、説明が不十分な場合は、再度きちんと説明し、納得して手術を受けていただくことの大切さを感じた事例でした。

近年は入院期間短縮のため、手術前日に入院することが多くなりました。患者さんの心身の準備のために、術前外来や術前検査センターなどが設置されるようになりましたが、術後の早期回復のための呼吸訓練や離床訓練など、術前看護が十分に機能しているかどうか懸念されます。

質の高い看護の提供ができるようにと願っています。

日本で唯一、看護職だけの  
執筆による事典。  
待望の第2版ができました。

## 看護学事典 第2版

A5判 / 横組 1200頁 / 2色刷  
ISBN 978-4-8180-1601-9  
定価(本体6,600円+税)



【総編集】  
見藤隆子・小玉香津子・菱沼典子

【内容紹介】  
項目語: 約4500語 ← 約500語追加  
索引語: 約1万4000語 ← 約2000語追加

★本書は単なる辞典(ことばの解説)ではなく、看護学領域における事典(ことばの解説)として編集しました。

ご注文はお近くの書店、または弊社コールセンターまで  
TEL: 0436-23-3271  
<http://www.jnapc.co.jp/> 日本看護協会出版会